

主体的に歴史を探究し、学ぶ意義を実感できる授業づくり —どうして前方後円墳は全国に広まったのだろうか—

広島文教大学 教育学部 講師 西村 豊



1 はじめに

歴史授業の課題は、教科書に掲載されている歴史的事象の暗記に多くの時間を費やしてしまっているということである。この課題を解決するためには、生徒が主体的に歴史を探究し、学ぶ意義を実感できるような授業を実践していくことが求められる。本稿では、生徒が主体的に歴史を探究する歴史授業「どうして前方後円墳は全国に広まったのだろうか」(以下、本授業)を紹介する。なお、本授業は『社会科 中学生の歴史』(以下、教科書)の「アクティビティに挑戦 前方後円墳の役割を考察する」(p.34～35)に基づいている。

2 単元構成と授業のねらい

本授業は、教科書の第2章第2節「東アジアのなかの倭(日本)」における「3 鉄から見えるヤマト王権」(p.32～33)の発展学習として、単元構成(表)中の第3時に位置付ける。「どうして前方後円墳は全国に広まったのだろうか」というテーマで、以下のねらいの下、実施する。

前方後円墳に関する資料を読み解くことを通して、前方後円墳が造営される背景には、ヤマト王権の政治支配権の承認という政治的な役割があったことを理解する。

表 単元構成

時限	学習テーマ
第1時	縄文から弥生への変化 縄文・弥生時代の日本列島の人々は、それぞれどのような生活をしていただろうか。
第2時	ムラがまとまりクニへ 日本列島のクニはどのようにまとまっていったのだろうか。
第3・4時	【本時】 どうして前方後円墳は全国に広まったのだろうか 鉄から見えるヤマト王権 ヤマト王権はどのようにして各地の豪族を従えていったのだろうか。

3 授業の展開

(1) 導入

導入では、3世紀末になると古墳とよばれる大王や豪族の墓が出現したことを説明したうえで、「③主な前方後円墳の分布」(図1)を提示し、「どうして前方後円墳は全国に広まったの

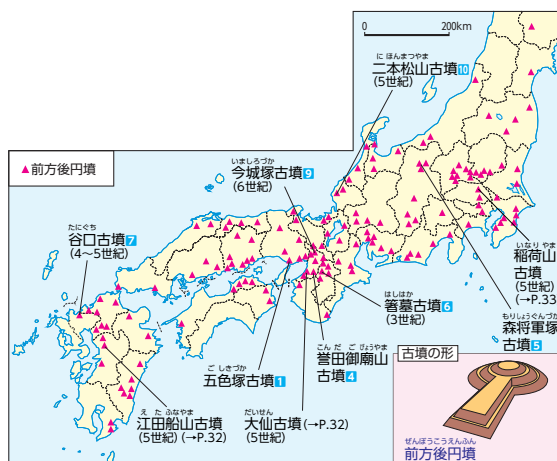


図1 『社会科 中学生の歴史』 p.34
「③主な前方後円墳の分布」

だろうか」と問い、予想させる。なお、予想は根拠と併せてノートに記述させるようにする。

(2) 展開1

展開1では、まず「今日の授業では、皆さんが自ら資料を分析することを通して自分の立てた予想を確かなものにしていきます」と投げかけ、生徒の動機付けを高めておく。そして「前方後円墳に関する情報を整理していきましょう」と指示し、表(図2)を板書する。生徒は、各視点について、「読み取ったこと(分かったこと、特徴)」「考えたこと」「使った資料」ごとにノートに整理していく。

	①つくられた場所	②前方後円墳の広がり	③大きさや時期の関係	④副葬品
読み取ったこと (分かったこと、特徴)				
考えたこと				
使った資料				

図2 『社会科 中学生の歴史』 p.34

ここでの学習活動は、ペアもしくはグループで行い、学習における協力、助け合いの関係を構築することができるよう留意する。教師は「どのようなことを読み取りましたか」と投げかけ、内容をクラスで共有できるようにする。

(3) 展開2

展開2では、まず「前方後円墳の大きさは地域によって違いがありましたか」と問う。その際に、「図古墳時代の年表」(図3)に着目させ、近畿地方の古墳が特に大きいことを再確認させる。次に「大きい古墳をつくることのできるのはどのような豪族ですか」と問い、力のある豪族が大きな

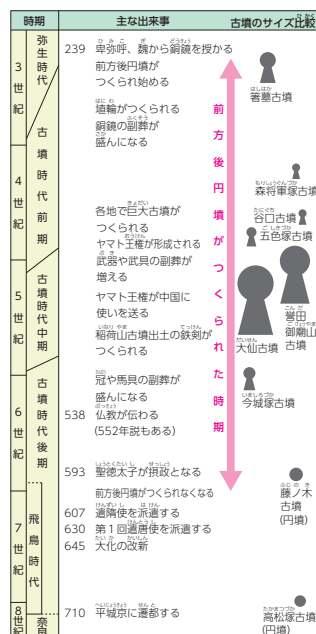


図3 『社会科 中学生の歴史』 p.35 「図古墳時代の年表」

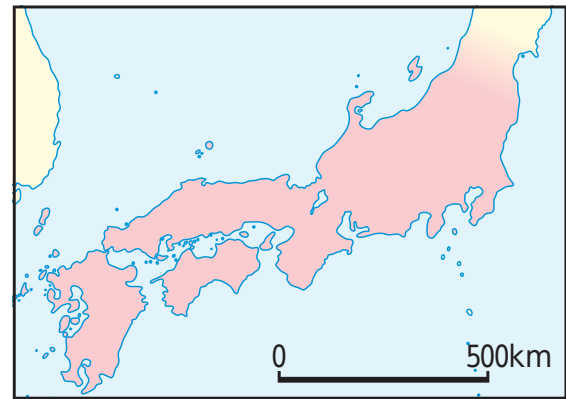


図4 『社会科 中学生の歴史』 p.34 「図5世紀ごろのヤマト王権の勢力圏」

古墳をつくることができることを捉えさせ、特に大きな古墳がある近畿地方がヤマト王権の中心であったことを理解させる。そして、「図5世紀ごろのヤマト王権の勢力圏」(図4)に着目させ、「ヤマト王権の勢力圏と古墳の分布にはどのような関係がありますか」と問い、前方後円墳の分布はヤマト王権の支配領域と関連していることを捉えさせる。

(4) 終結

終結では、「授業で学習した内容を基に予想を加筆・修正しましょう」と問い、ノートに記述させる。生徒は根拠となる資料を示しながら「ヤマト王権の勢力拡大とともに前方後円墳が広がった」を記述するだろう。最後に、「前方後円墳にはどのような役割があったでしょうか」と投げかけ、ヤマト王権による政治支配権を承認するという政治的な役割があったことを捉えさせる。

4 おわりに

本授業の学習過程は、導入で提示した問いに対する予想を、諸資料を活用しながら、検証・修正するというものである。これにより、生徒が主体的に歴史を探究し、学ぶ意義を実感できる歴史授業となろう。また、生徒の予想がどのように変容したのかノートの記述内容を確認することで「主体的に学習に取り組む態度」を評価することができる。